





令和4年 **1 1**月の大阪森林便り

目次

今月の木の話 木材の「ふし」

- (1)  木材大手を買収 積水ハウス、高級路線強化
- (2)  カナダ産木材 32%安 対日 10~12月 米国向け需要減少
- (3)  木材助成 23億円不適切 検査院指摘
- (4)  合板在庫 3割増 9月末、2年ぶり水神



今月の木の話 木材の「ふし」

*「ふし（節）」：幹が太くなる過程の中で、枝の元の部分が幹の中に包み込まれてしまった部分。

*「いきぶし（生節）」：枝の元が活着している間に、組織とつながりをもちやすい場合の節。

*「しにぶし（死節）」：枝が枯れてしまい幹の中に取り込まれる場合、枝と幹が連絡しておらず、単に異物が幹の中に埋め込まれた状態の節。

*節は一般に、暗褐色で密度が高く、樹脂分が多いのが特徴。

*節が板幅を縦断する場合には、強度が落ちます。

（木材利用システム研究会 木力検定委員会 木力検定 木を学ぶ 100問より抜粋引用）

(1) 木材大手を買収 積水ハウス、高級路線強化

*積水ハウスは木質インテリア大手のマルホンを買収。

*積水ハウスは高単価の住宅を強化。

*フローリングでは、100%天然木を使用した高単価品を採用する例が増えています。

・戸建て住宅のみならず商業施設や公共施設などでも一定の需要があります。

*積水ハウスの戸建て住宅では、販売価格が5000万円以上の棟数が2022年度（2~7月）に22%を占め、2020年度比で9ポイント増えました。

・1棟当たり単価は4542万円と5年で2割弱上昇。

（2022年10月1日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

(2) **カナダ産木材 32%安 対日 10~12 月**

米国向け需要減少

- *北米産木材の値下がり幅が広がりました。
- *現地で住宅向け需要が減り、供給がだぶついています。
- *10~12月期の日本向け価格は、前四半期（7~9月期）に比べ約32%安。
- *国内の木材消費は、持ち家着工の不振などで低調。
- *値下がりとは2四半期連続で、7~9月期（20%）に比べ下げ幅が拡大。
- *針葉樹製材で、カナダ産は日本の輸入量の2割程度。
- *カナダの針葉樹製材の輸出先は米国が8割程度。
- *国内の流通価格は、対日価格ほど下がりそうにありません。
 - ・約13%の円安が進み、ドル建ての値下がり分を圧縮。
- *SDGsへの貢献などを意識し、住宅大手が国産材を使う動きも出ています。

（2022年10月7日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）



(3) **木材助成 23億円不適切 検査院指摘**

林野庁 コロナ対策、対象外など

- *新型コロナウイルスの感染拡大で一時需要が減少した木材の利用促進のため、林野庁が2020年度に全国の487事業者に対し約71億円を助成した事業を会計検査院が調べた結果、約33%にあたる約23億8515万円分（147事業者）が、本来は対象外だったり、助成が無くても利用が見込まれたりしていた不適切な交付でした。
 - *助成業務を担った全国木材組合連合会に対する林野庁の説明が不十分だったり、要件設定に不備があったりしたことが原因。
 - *会計検査院が調べたのは、コロナ禍による輸出停滞などで余った木材在庫を解消する目的で2020年度に実施された「過剰木材在庫利用緊急対策事業」。
- （2022年10月26日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

(4)  合板在庫3割増 9月末、2年ぶり水神

住宅需要が不振 メーカー減産

*合板の国内在庫が急増。 ・9月末の国産針葉樹合板の在庫量は8月末より3割多く、2020年8月以来2年1か月ぶりの高水準。

・住宅工事の遅れで出荷が落ち込んだうえ、輸入品の増加も影響。

*出荷量は3か月連続で減少し、2015年5月以来の低水準。

・価格高騰や納期遅れが続く注文住宅向けを中心に需要が減速。

*1~8月の中国産針葉樹合板の輸入量は、前年同期の約15倍。

*大半のメーカーは10月から、一部は9月から減産を始めたもよう。

・減産幅は10~20%程度。

(2022年10月28日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

